令和元年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

認知症高齢者に携わる警察官の対応スキルの実態 ～警察官および当事者・家族の双方の視座から～

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	大山 一志	看護学部 看護学科・助教
研究分担者	成松 玉委	看護学部 看護学科・講師
	宮野 公恵	看護学部 看護学科・助教
	岸田 るみ	看護学部 看護学科・助教
	藤井 博英	看護学部 看護学科・教授
	柏葉 英美	岩手県立大学 社会福祉学部・准教授

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
岩手県盛岡東警察署	生活安全課、交通課、刑事課、地域課
岩手県盛岡西警察署	生活安全課、交通課、刑事課、地域課
秋田県横手警察署	生活安全課、交通課、刑事課、地域課

4. 研究期間

2019 年度

5. 研究の目的

我が国の認知症高齢者数は年々増加の一途を辿っている。同時に、認知症に伴う免許返納や行方不明、近隣トラブル等、警察官が携わる案件も増加している。認知症は、その関わり方一つによって、症状が大きく影響を受ける疾患である。しかしながら、すべての警察官が認知症高齢者への関わり方を理解し、適切に対応できているわけではなく、警察官の認知症高齢者の対応スキルの向上は喫緊の課題となっている。

そこで本研究では、警察官および当事者・家族の双方の視座から警察官の認知症高齢者対応実態を明らかとすることとした。

6. 研究報告

岩手県盛岡市の盛岡東警察署および西警察署の警察官 8 名、秋田県横手市の横手警察署

の警察官 4 名を対象に警察官が携わる認知症高齢者対応の実態についてのインタビュー調査を行った。警察官の対応事例としては、行方不明者の捜索、物忘れが招く盗難の通報、近隣トラブル、家庭内暴力などの対応事例が増加していた。また、警察官が認知症高齢者対応で難しさを感じることで、説明による理解を得ることが困難であることや認知症の度合いを判断する難しさ、正確な情報を得ることの難しさ等を感じていた。

また、岩手県二戸市に居住する、75 歳以上の男性 3 名を対象に免許返納に至った高齢ドライバーの後悔についてインタビュー調査を行った。免許返納後の高齢ドライバーには、外部の暗黙のプレッシャーによる怒り、生きがいへの危機感、身体機能の低下に伴う危機感などの後悔が内在していることが明らかになった。

7. 成果の公表

- 1) 運転免許を返納に至った行為への高齢ドライバーの「後悔」と「悲嘆」
(2019 年 11 月第 39 回日本看護科学学会学術集会にて示説発表)
- 2) 認知症高齢者の対応にあたる警察官が持つ看護専門職者へのニーズ
(2019 年 11 月第 39 回日本看護科学学会学術集会にて示説発表)
- 3) 認知症サポーターからパートナーへのパラダイムシフト ～企業、警察、認知症カフェの取り組みから～
(2019 年 11 月第 39 回日本看護科学学会学術集会にて交流集会を開催)

8. 総評

なし